

プロフィール

中山五月台中学校などで中学校国語科教諭として勤務ののち、教育委員会や中学校で管理職を務められました。学校現場では「おーいお茶新俳句大賞」の優秀学校賞受賞の指導や、校長時には全校俳句大会の主催など、短詩型文芸を中心に子どもの表現活動に取り組みられました。退職後も教育委員会主催「ことばの祭典・俳句バトル」に関わるなどの取り組みを続けられています。

自由な旅へ ～中山台小学校校歌について～(曲に込めた想い)

中山台から見晴らせる風景は雄大です。

大阪平野を一望でき、世界につながっている海も、空港も臨めます。

海へでも、空へでも旅立てる場所が中山台。

新しい学校の校歌を作詞するという栄誉に浴した時、真っ先に思ったイメージが「旅」でした。

旅は、自由です。一直線に目的地へ向かうだけの移動は旅とは言えません。

時には、道に迷ったり、思わぬ出会いに道草をしたり、時には、ごろんと寝転ぶような時間があるこそ、旅の醍醐味があるのでしょう。回り道をしたっていい。くねくね道で歩きにくくてもへこたれなくていい。自分の道なんだから、笑顔でてくてく歩いていこう。この「回り道」「くねくね道」という、およそ校歌らしからぬ言葉に、子どもたちへのまなざしを込めました。

学校での学びも、旅そのものです。ただ知識を詰め込んで、正解だけを求めることは、学びとは言えません。いろんな人やものごとに触れ、たくさん体験をする。時には失敗をしたり、思いどおりにならなかったりもするでしょう。でも、そこから、自分で考え、自分の感性を磨くことが、生きてはたらく豊かな力につながります。予測困難な時代だからこそ、子どもたちには、しなやかな強さと、人生を楽しむ豊かさを身につけてほしい。学校はそれを支える場になってほしいと願っています。

「旅」というキーワードをもとに、中山台の四季の風景を重ねながら、校歌を紡ぎました。

春。友だちとの出会いは、さくらの花びらのようにやさしい。

初夏のさわやかな風のように、先生やおうちの方、地域の方が見守ってくれる。

夏の暑さは厳しいけれど、子どもの大きなエネルギーになる。

秋には、次の年の実りのために、土を耕し、たっぷりと水をやろう。

冬の寒さに耐え、土の中で、根を広げることが大きな成長につながる。

中山台小学校での一日、一日は、未来の自由な旅のための地図を作る楽しい学びの時間。

いつかひとりひとりが旅に向かい、七つの海を越えていく、その姿をイメージした詩です。

(→次ページへ続きます)

さあ、旅へ向かおう。

詩の最後の行（「さあ、旅へ向かおう」）の前は、一行ぶん、間があいています。

ここでは、歌う皆さんが好きな言葉を入れられるように、わざとあけています。伴奏のしかたや長さも自由です。何も言葉は入れないで歌うのもよいですが、みんなで呼びかけをしたり、一人の言葉を入れたりすることもできます。

たとえば、一学期の始まりなら、「新しい友だち！」「みんなよろしく！」。運動会なら「走るぞ、飛ぶぞ、躍るぞ！」友だちの誕生日に「〇〇さん、おめでとう！」とサプライズも楽しい。

その時その場面の思いに合った言葉を皆さんが考えて、歌を完成してください。そうすることで、校歌が自分たちのものになります。きっと全国でも例のない歌になることでしょう。

どうぞ、胸を張って高らかに歌いあげてください。この歌が、中山台小学校につながる全ての人に愛されることを願っています。

（作詞者 西澤健司）